

Q & A

# CRSへのこんな疑問はこのように解決する！

ここでは、居住地国の確認手続きに関するよくある疑問を挙げて対応方法を解説します。

**Q1** FATCAもCRSも同じような制度なのに、なぜ2つも必要なの？



**F** FATCAとは、「Foreign Account Tax Compliance Act」の頭文字を取ったもので、

米国の「外国口座税務コンプライアンス法」のことです。ひと言でいえば、米国人（法人も含む）による外国金融機関の口座を利用した脱税を防止するため、各国の金融機関がIRS（米国内国歳入庁）へ米国民・米国居住者の金融口座情報を報告する制度です。

一方のCRSは「Common Reporting Standard」の頭文字を取ったもので各金融機関が非居住者の金融口座情報を報告し合いい、各国の税務当局が非居住者（すなわち外国において申告納税義務がある者）の情報を把握するという仕組みです。

これに参加する各国は、それぞれの金融機関から提出される情報を税務当局（わが国でいえば国税

庁）で取りまとめ、自動的に情報交換を行うようになります。CRSという共通基準ができたことにより、各国で非居住者が持つ口座の特定方法・情報の範囲などが統一ルール化されていることが特徴です。

●それぞれ確認が必要に

今後、金融機関はFATCAの枠組みにより米国民・米国法人・米国居住者の口座情報をIRSに報告しつつ、CRSに基づき非居住者・外国法人の口座情報を国税庁へ報告しなければならぬこととなりますが、両制度は報告先が異なるため、1つにまとめて確認手続きを済ませることが原則としてできず、お客様への確認様式も二重となる点に注意が必要です。

お客様の中には、新たにCRS

## 居住地国



の確認手続きを行う際に「そもそもFATCAが分からないのに、CRSなんて、もつと分からない」と言う方も多いでしょう。改めて制度の仕組みや目的について丁寧に説明ししっかり理解してもらいましょう。

また、日本人であれば報告対象にはなりませんし、脱税をしていなければ不利益は生じないということも合わせて説明して、納得して手続きに協力してもらうことも必要です。

### Point

FATCAとCRSでは報告先が異なり二重で確認が必要